



TITLE:

ブルック・ファーム

AUTHOR(S):

穂積, 文雄

CITATION:

穂積, 文雄. ブルック・ファーム. 経済論叢 1962, 90(1): 12-33

ISSUE DATE:

1962-07

URL:

<https://doi.org/10.14989/132892>

RIGHT:

經濟論叢

第九十卷 第一號

アジア貿易の諸問題……………	松 井 清	1
ブルック・ファーム……………	穂 積 文 雄	12
管理価格と政府部門に関する 問題史的考察(二)……………	池 上 惇	34
蒙古民族の牧畜について……………	伊 藤 幸 一	61

昭和三十七年七月

京都大學經濟學會

ブルック・ファーム

穂積文雄

七

それでは、ブルック・ファームの財政状態は、いかにあつたのであろうか。

リブレイは、うまくいつている、と、いう。ホーソンは、あやうい、と、いう。いつたい、どちらがただしいのか。前者は樂觀的である。後者は悲観的である。いつたい、どちらがあやまりなのか。われわれは、どちらにしたがえばよいのか。真相は、はたして、どうなのか。それが問題である。わたくしは、これから、それをあきらかにせねばならない。

なるほど、ブルック・ファームでは、財政難が表面にあらわれては、いないようだ。そのかぎりでは、うまくいつている、と、いえるでもあろう。それなら、リブレイのいうとおりということになる。かれが樂觀的であるのも、もつともである、と、いわなければならぬ。しかしながら、すこしく、たちいつて、うかがってみると、かならずしも、うまくいつている、とはいえない。すくなくとも、そう樂觀することをゆるさぬものがあることを、みいださざるを得ないようである。というのは、こうだからである。かれは、資金をもとめて、いろいろと、画策・奔

走している。たとえば、エマーソンに、しばしば、書をよせて、資金の援助を懇請している。その中、一八四一年一二月一七日付のものの中で、かれは、つぎのごとく、いつている。

われわれは、大きな障害に、うちかかってきました。われわれの基礎は賢明におかれました。わたくしは、そう信じています。わたくしには、そうみえます。

これは、さきにも、引いたところである。¹⁾ところが、実は、かれは、そのあとに、すぐに、ひきつづいて、つぎのごとく、かかねばならなかった。

ただし、われわれの貧困より生ずる障害は、別です。(: except the hindrances that arise from our poverty)²⁾

したがって、かれらは収益をあげることがわれわれにならなかった。そのねがい切なるものであった。それがいかに切なるもので、あったかは、つぎに引くチャールス・ダナのことばによって、われわれは、それをうかがうことが、できるであろう。

われわれの終局の目的は地上に天國を建設すること——現在、瘴癘の氣を發散しており、不自然な氣候にとりつかれているこの地球を化して、美と健康の住居とし、現在、かくまでに失われ・忘れられている神の映像 (divine image) を人道に還付すること——以外のなものでもない。……ここに、われわれをして、はつきりといわしめよ。われわれが、まづ、ねらうところの實際的成果は富である、と。われわれは、憶することなく、宣言する。およそ、富は人道の發展に不可欠の要件であり、前者がなければ後者は不可能である、と。われわれは、人性のいかなる部分にも、挑戦するものではない。ただ、その虚偽の状態・壊乱せる状況に挑戦するのみである。³⁾

さらに、かれらは、訪問者を歓迎している。そのことは、われわれは、たとえば、生徒の一人のかきのこしている手紙の、つぎの一節から、容易にうかがうことが、できるであらう。

かれ（訳者注、リブレイのこと）は、お父さんのことを、いろいろと、たずねたわ。そして、お父さんとお母さんと妹たちに、このコミュニティーを、たずねてもらいたい、と、いったわ。あちこちの市や州からの訪問客があるわ。そして、いつでも、大変な款待をうけているわ。⁴⁾

このように、訪問客を歓迎するのは、なんのためであるか。それは、いわゆるP・Rのためであらう。そうしか、かんがえられない。そしてP・Rのねらいは、財政的援助をもとめるためと、解してもよからう。そう解しても、かならずしも、うがちすぎるとのそしりをこうむらなければならない、ということはあるまい。ところが、このように、訪問客のあることは、もと、このような事業にとっては、マイナスにこそなれ、プラスになるとは、おもわれない。それに、財政的援助そのものについても、エリザベス・ビーボティ女史のごとき、さき引いたブルック・ファームを紹介する記事の中で、つぎのごとくにさえ、いつているくらいである。

……成功のための資金をもとめるに急なるのあまり、かれら（訳者注、Brook Farmers）は、不浄の金に手を出すかもしれない。（In their ardor for means of success, they may touch the money of unrighteousness.）⁵⁾ かねももの家になされたとか、あるいは、タレントが身についているとかの、偶然（the accident of birth or of personal talent）によって得た富が現代の社会を助長するにまかせることを、よろこばぬほどに賢明であるひと、すくなくない。かれらの中、その富をこのコミュニティーに提供、あるいは、遺贈する気になるものも、たくさんいるであらう。その場合、それを固辞するのは隠遁主義（asceticism）であらう。よろしく受けるべきである。「汝の神たる主をあがめ、ただ主のみにつかえよ」。綜合大学とし

での、あるいは、眞の生活体制 (a true system of life) としてのコミュニティーに基金を寄付しようとするものは、かれが
あたえるところのものを、無条件に、メンバーが生命・財産、および、名誉とともに身をコミュニティーになげ出すとおなじ信
念 (spirit of faith) をもって、提供するのでなければ、みずからのなすところのものを理解してはいないのである。ともかく、
いかなるものにして、条件つきのものを受けとることは、かれらの進歩の原理 (their principle of progress) に反する。た
だし、かれら (訳者注、寄付者) がアソシエーションにとどまり、現在の規約にもとづくメンバーの、多数の節度に服すること
が、一つの条件にかんがえられる場合は、このかぎりではない。

それにもかかわらず、なお、かつ、このように訪問客を歓迎するのである。そのことは、それほどまでに、かれ
らは、財政的援助を欲していた、ということこそ、意味せねばならないであろう。そして、かれらが、それほどま
で、財政的援助を欲していた、ということは、かれらが、いかに財政的になやんでいたかを、ものがたるもので、
なければならぬであろう。

だが、それは、すくなくとも、表面には、あらわれない。財政は破綻をしめさない。それどころか、うまくいっ
ているようにみえる。事実、それは発展成長をつづけているようにさえみえる。それは、いつたい、どうしたこと
か。その秘密をとくかぎは、そもそもどこにあるのか。わたくしは、それを追及してゆくとき、それを学校経営の
もたらす収益においてみいださざるをえない。というのは、わたくしは、つぎのごとき引用をすることができる
らである。

一八四三年一〇月五日、ニューヨークで発行された「フランクスの創刊号に、「ロックスベリー・コミュニ
ティー」と題する一文がのせられている。その中に、われわれは、つぎのごとき記述をみることができる。

これは、ほとんど、まったく、一つの教育施設 (an Educational establishment) である。それは主として、その優秀な学校の収入に依存している。その学校は、われわれのみるところによれば、その機構・運営の特性により、国内で最上のものである。そして、その産業上の収益に依存することはきわめてすくない。⁽⁶⁾

また、一八九四年の「ニュー・イングランド・マガジン」に、「一少年のブルック・ファームについてのおもいで」という一文がのっている。その中には、つぎのごとき記述がみられる。いわく、

わたくしがブルック・ファームにいたときの印象は、五〇年後の今日、なおわたくしのところに、まったく、あきらかに、のこっている。(中略) このソサイエターの主たる収入は、寄宿人^{ホステル}たちからのものであった。寄宿人たちは、アッソシエーションの正規のメンバーではなかった。その多くは、わかいひとたちであった。かれらはメンバーのひとつたちから教育をうけた。⁽⁷⁾

だが、そのことは、やがて、ブルック・ファームの産業が収益を、ほとんど、あげていないということである。

そして、ブルック・ファームの産業が収益を、ほとんど、あげていないということは、ブルック・ファームは、産業の面では、みるべき成果をあげていないということに、ほかならない。そして、そのことは、チャールス・レーンの書翰の一節にも、表明せられている。その書翰はかれが、一八四三年七月三〇日、「ニュー・エージ紙」に寄せたものであるが、その中で、かれは、こう、いつている。

……わたくしは、しごとや、収獲——来年のこやしのための、クローバーやぐさの高い作物の中での、われわれのぐさ^{グ래스}かり・くさ^{ハーベス}かり・かりいれ^{リイ}・たがやし^{タガヤシ}や、そのほか、いろいろの作業について、報告することができます。しかしながら、われわれが地上の作物を増殖する方法をこころえても、その方法をしめすことによって、なんらかの利益が生ずるという^ミこみは、ほとん

ど、ありません。だから、われわれは、物質的富裕 (external wealth) には、あまり関心をもちない、と、申しあげたい。⁸⁾

したがって、いま、財政の弱体が問題となるとき、いいかえれば、その強化が問題となるとき、産業面での収益増大、が要望されるにいたるであろうことは、容易に推測できるところでなければならぬであろう。そして、そのとき、産業面の拡大強化が日程にのぼされるにいたるであろうことは、当然すぎるほど当然のなりゆきで、なければならぬであろう。そういつてよからう。しかも、そればかりではない。そもそも、ブルック・ファームの設立の趣意は科学と産業の結合にある。そのことは、われわれの、すでに、あきらかにしたところである。しからば、かりに、右のごとき財政の面からの要請がないとしても、ブルック・ファームが、かくのごとく、教育、しかも、学校経営にかたよることは、このましいこととは、いえない。産業を弱体のままに放任することは、ゆるされぬところでなければならぬ、はずである。でなければ、設立の趣意にそむくことになる。設立の趣意にそむくことは、やがて、事業の失敗以外のなものでもない、はずでなければならぬ。いわんや、事情は右のごとくである。財政強化・収入増大の要にまみられている。かくて、われわれは、いまや、産業の拡大強化が日程にのぼるのを見ることとなる。それでは、それは、いかに進行したか。

わたくしは、さきに、一八四四年一月号の「ダイアル」にチャールス・レーンがかいた文から、つぎの一節を引いた。

……三年もたっているのに、教育を主とするインスチテューションとするか、産業を主とするインスチテューションとするか、それとも両者を結合したものにすべきかの決定さえ、きまっていないようにおもわれる。……

これは、その当時、この問題が、ようやく、日程にのぼってきていたことを推定せしむるにたるものと、かんがえてよいであろう。けれど、ブルック・ファームの基本構想、その設立の主旨よりすれば、それが教育と産業乃至学校と農業の二本建であるべきことは、既定のことからである。いずれを主とすべきやにまよう余地はないはずである。両者を結合したものにすべきかなどということは、それが、いまさら、問題になるのが、おかしい、と、いわなければならぬところである。しかるに、いま、それが、問題となっているのである。そのことは、このころ、あらためて、産業の拡大強化が日程にのぼってきていたことをものごとでなければならぬ。そう解しなければならぬであろう。それが日程にのぼったからこそ、このような三つのかんがえかたが、あらわれてきたわけである。そうみてよからう。だから、そこに、このような三つのかんがえかたがでてきたということは、いよいよもって、右の事情をあきらかにするものと、いつてよからう。そう、いつて、さしつかえあるまい。そして、その当然の帰結は、産業の拡大強化にふみきること、なければならぬ。そのことは上乗のべてきたところよりして、容易に推測しうるところであろう。事実、そういうことになっている。さきに引いた一八四三年一〇月五日の「ファラックス」紙上にあらわれた「ロックスベリー・コミュニティ」¹⁰⁾という文の中にみえる、つぎのよびかけは、そのことを明示する一端とするにたるであろう。いわく、

……それ（訳者注、ブルック・ファームをさす）はボストン郊外八マイルの地点に所在し、現在、美良な土地約二五〇エーカーを所有している。その唯一の産業部門はこの土地の耕作である。しかしながら、それは、若干の機械部門（some branch of mechanics）を設置し、資産を有し、そこに有利な位置を得ようとする優秀な技術家をむかえることをぞんでは、¹¹⁾ 照会は、郵税先払（post paid）、マサチューセッツ・ロックスベリー、ジョージ・リブレイ師宛のこと。

かくのごとくして、ブルック・ファームは産業部門の拡大強化にすすむこととなる。それでは、それは、いかにすすんだか。

ブルック・ファームが、産業部門の拡大強化にすすむことは、やがて、その体質改善の断行にふみきることではなければならない。そして、そのことは、あたらしい規約の採用に結実した。そのあたらしい規約は一八四四年一月八日にできた。それでは、それは、いかなる内容のものであるか。そこに、われわれは、いかなる体質改善をみいだすか。そのことは、この新規約と、さきにその全文をかかげた旧規約を比較対照すれば、おのずから、あきらかとなるはずである。しかしながら、わたくしは、いま、ここに、新規約の全文をかかげることは、さしひかえたい。あまりに、わずらしいからである。わたくしは、ただ、それが、フリーエーのフランジュのアイデアをとり入れたものである、というにとどめる。そしてそれをあきらかにするために、つぎの二つの点を指摘したい。それで、われわれの、いまの目的には、充分、そういうであらう。

まづ、指摘したいことは、その名称の変更である。それは、旧規定では、インスチテュートと、なっていた¹⁹⁾。ところが、新規約ではアッソシエーションとなっている。アッソシエーションは、いうまでもなく、フリーエー派がこのんで、みずからの体制を、よふところの称呼である。したがって、いま、インスチテュートの名称を、廃して、これにかえるにアッソシエーションをもってしたことは、やがて、フリーエー主義採用の端的なる表現にほかならない。そう解せられる。すくなくとも、わたくしはそう解する。もちろん、従来のブルック・ファームも、アッソシエーションといえばアッソシエーションであった。それは、そのとおりである。それにちがいはない。いな、それどころではない。これまでも、しばしば、この名称を、ひととはもとより、みずから、みずからに適用してきて

いる。そのことは、これまでの本稿に引用したところの**かずかずの文章**によつても、あらきかなところであらう。しかしながら、さすがに、公的な名称には**インスチチュート**ということばをもちいた。あえて**アソシエーション**ということばをもちいなかった。それが、ここに、**インスチチュート**を、あらためて、**アソシエーション**としたのである。そこには重大な意義の存することを看取せざるを得ないではないか。そして、その意義を**フリーエリズム**への傾倒においてみいだすのは、あやしむにあたらないであらう。そういうと、ひとは、あるいは、いかもしれない。インスチチュートといい、あるいは、アソシエーションという。そのいずれをとるか、それは、偶然にすぎない。別にたいした意味があつてのことではあるまい、そこに重大なる意義が存せねばならぬ理があるとはかゝんがえられない、と。しかしながら、わたくしは、それでも、あえて、いう。わたくしには、そうはおもわれない。と。なぜ、わたくしは、あえて、そういうか。それは、つぎの事情による。

もともと、**リブレ**は、**ブルック・ファーム**をおこすにききだち、数年にわたつて、当時北アメリカに存在していた宗教的な**コンミューン**を、熱心に、みてまわつたものである。¹⁴⁾そして、**フリーエリズム**についても、**ブルック・ファーム**の発足前、すでにしていた。¹⁵⁾そして、**ブルック・ファーム**の構想には**フリーエ**の**ファランジュ**に近似しているものがある。そのことは、わたくしの、すでに、指摘しておいたところのごとくである。¹⁶⁾それにもかかわらず、**アソシエーション**ということばを、とらずに、**インスチチュート**ということばを、とつたのである。それを、はたして、単なる偶然とみてよいであらうか。はたして、たいして意味のあることでないか、かたずけてしまつて、よいものであらうか。すくなくとも、わたくしには、そうすることができない。わたくしはうたがう。かれ**リブレ**はじぶんの構想をもつて、**フリーエ**のそれとことなる、独自のものと**の自負心**をいだいていた、かれ

は、フリーエーの亜流たるにあまんずるには、あまりにも自尊心がつよかった、そして、その自負心・自尊心が、かれをして、あえて、アッソシエーションの名を、すてて、インスタチュートの名を、とらしめた、のではなからうか、と。こういうと、ひとは、いかもしれない。それにしても、二つのものは、ひどく、近似しているではないかと。それに対して、わたくしは、こたえるであろう。だからこそ、ますます、かれらは、フリーエーの亜流とみられたくないという感情をつよくするにいたるであろう、と。かれら、すくなくとも、かれリブレイがフリーエーの亜流とみられることをいとうたことは、さきにも引いた、「一少年のブルック・ファームについてのおもいで」中のつぎの一節によつても、これを、うかがうことが、できるであろう。

……わたくしは、している。わたくしが、はじめて、そこ（訳者注、ブルック・ファームのこと）に、いった、当時、ひととは、フリーエーの徒とよばれることをあつていた（they repudiated the name of Fourierites）。¹⁷⁾

また、ブライスデール・ロマンスのつぎの一節を、ここに引くことも、この際、かならずしも、いみのないことでは、あるまい。

……おそろしくたいくつな本の行列の中にフリーエーの著書があった。それは、すくなくからず、わたくしの注意をひいた。かれの体系とわれわれのものとの類似をみとめざるをえなかったからである。もっとも、根本原理における両者のちがいは、想像を絶するものがある、天地雲泥もただならないほどのものが、あるには、あるが。

わたくしは、ホリングスウォースに、フリーエーのことをはなした。そして、かれのために、わたくしが、おもに、印象をうけた章句を、若干翻訳してやった。

「人類が改善せられた結果」と、わたくしは、いった。「地球がその最終の完璧 (final perfection) に到達したときには、大洋は、フリーエーの時代にバリーではやっていたような、一種のレモナードにかわるはずである。かれは、それを、レモナード・ア・セードルとよんでいる。それは確固たる事実なんだ。まちのいりえ (city dock) が、毎日このたのしいのみので、いっぱいになるなんて。ちよつと、想像しても、みたまえ。」

「どうして、そのフランス人は、すぐ、それで、パンチ (punch) をつくらなかったんだい」と、ホリングスウオースは、きかえした。「水夫たち (jack-tars) は、よごこんで、そのような商売をやる (do business in such an element) ことだらう。」

わたくしは、さらに、すすんで、できるだけ、おだやかに、フリーエーの体系の若干の点を説明し、そこ、ここ、で、一・二頁を、例にあげ、そして、これらのうつくしい点 (peculiarities) を、われわれのところで、実行にうつしては、どうだろうか、と、かれの意見をたずねた。

「もう、そんなはなしは、やめにしてくれ (Let me hear no more of it)」と、かれは、大変なふきげんで、さげんだ。

「このおとこは、ゆるせない。きやつは、ゆるしがたい罪を、おかしている。なぜなら、悪魔だって、この利己主義——そうだ、あらゆる人間の愚事・人間の心事の醜惡そのもの、われわれがそれに対してみづるいをし、そして、それをあらいおとすのが精神修養の目的にはかならない・われわれの一部分——をえらぶこと、よりも、なにか、もっと、おそるべき不正を、かんがえ出すことが、できようか。およそ、わるい・つまらない・きつたない・けからわしい・非道な・そして、いまわしい・墮落が、われわれの性質を腐敗せしめるものに、とびつき、それをなくくむことは、地獄の再生に役立つ道具になることだ。かれがきづきあげた楽園は、かれのえかくところにしたがえば、かれがそれをきづきあげるのに、あてにするひとに、つきづきしいであらういかなやつだ！」 (The nauseous villain)。「だが」と、わたくしは、いった。「かれの体系の約束する、もろもろのよろこ

ばしいもの——たしかに、よろこばしい、それなればこそ、フリーエーの国のひとびとに、うけたのだ——その約束せられたよろこばしいものを、かんがえてみると、フランスの輿論がかれの説を、ただちに (at a moment warning) 採用しなかったことが、ふしぎでならないんだ。だが、フリーエーの意見の出しかたの中に、フランス国民の特質の、なにかが、かけていたのでは、ないのかな。かれはインスピレーションにうったえることを、していない (He makes no claim to inspiration)。かれは——スエーデンボルクがしたように、また、一人のフランス人以外のたれでも、それを、ひとにとくことが、それほど重要である場合に、するであろうように、——じぶんは神の権威において説いているとの確信を、もち得なかった。かれは自己の体系を、かれの責任において公布した。すくなくとも、わたくしには、そうかんじられる。かれは、ただ、かれ一個の知力 (the here force and cunning of his individual intellect) により、過去・現在および未来かきり七万年間の人類に関する天意 (the whole counsel of the Almighty) を発見したのだ」

「その本を、見えないところに、もっていつてくれ」と、ホリングスウォースは、毒々しげに、いった。「そうしなければ、わたくしは、はっきり、いうよ、わたくしは、その本を火の中に投げこむ、と。そして、フリーエーには、かれにできるなら、ゲーナのバラダイスを、かってに、つくらさせるが、よいさ。さだめし (as I conscientiously believe)、いまいづろは、やっこさん、ゲーナで、もがきまわっていることだろうよ。」

「そして、どなっていることだろうね」と、わたくしは、いった。——わたくしは、フリーエーに、なんら、悪意があったわけではない。ホリングスウォースの心像に終止符をうちただけである。——「かれのお気にいりのリモナーデ・ア・セーデルを、くれる、と、いつて。」¹⁸⁾

ここに、わたくしというのは、ホーソンみづからをモデルとするカバードールであり、ホーリングスウォースのモデルはリブレイとみてよからう。もとより、これは一篇の小説である。だから、フィクションがある。それを考慮に入れねばならない。それは、いうまでもない。だが、ブルック・ファーマーズのフリーエリズムざらいを知る

よすがとなすことはできるのである。

述べて、ここにいたるとき、一つの疑問が生ずる。それは、ほかでもない。それほど、いとうたフリーエリズムを、なぜ採用したか、ということである。いうまでもなく、それは、ブルック・ファームにおける産業部門の拡大強化の要請による。そのことは、上述せるところよりして、あきらかである。そして、フリーエー主義は産業の拡大強化の要請にせまられているものにとつては、はなはだ魅力があるにちがいない。それは、いなみがたい、ところである。しかしながら、だからといって、産業の拡大強化の道はフリーエー主義の採用でなければならぬ、というのではない、であろう。産業の拡大強化の要請は一つのことであり、フリーエー主義の採用は他のことでなければならぬ。そうだとすれば、フリーエリズムの採用は産業の拡大強化の要請のみでは説明しがたい、といわなければならぬ。いわんや、フリーエリズムをいとう感情さえみられることを、おもうとき、なおさらで、なければならぬであろう。それでは、それは、いかに説明せらるべきであるか。しかしながら、ひるがえつて、かんがえてみれば、ブルック・ファームの構想とフリーエリズムの間には近似性がある。ブルック・ファーマーズがフリーエリズムをいとう感情さえも、そこから由来するものがあるときえ推考できないことはない。そのことは、すでに、ふれたところのごとくである。すでに二者に近似性がある以上、一方から他への移行は、きわめて、自然である、と、いへるでもあろう。さらに、当時、北アメリカにおいては、フリーエリズムの風潮がみなぎっていた。その運動がひろがっていた。それなればこそ、ブルック・ファームの構想がフリーエリズムに近似性をもったのである。そのことも、すでに、ふれたところのごとくである。ところで、その運動の先頭に立つてはなばなしい活躍をつづけていたものはブリズベーン (Albert Brisbane, 1809-90) であった。そのかれが、フリーエリズムに近似性をも

つブルック・ファームを、どうして、ものがすることがあろうか。はたして、かれは、しばしば、ブルック・ファームをおとずれ、ブルック・ファーマーズにフリーエー主義を宣伝した。そこで、かれらブルック・ファーマーズは、フリーエリズムのフレイジアラジイにひきつけられるにいたつた。それはかりではない。さらに、説をなすものはいう。ブリスベーンはフリーエー派の機関誌の発行をもつていざなつた。さらに、かれは、リブレイに説いた。いわく、ブルック・ファームがフアランクスとなれば、リブレイは一流のフアランクスの頭首となる、したがってフアランクスの国民的団結であるザ・フレンジ・オブ・アッソシエーション(The Friends of Association)の統領(president)の椅子はリブレイの来り座すをまつことになる、と。リブレイはこの好餌にとびついた。かくて、ついに、ブルック・ファームのフアランジュ化が実現した、と。¹⁹⁾「莫須有」といふべきか。

つぎに指摘したいことは、新規約の中にみいだされるシリーズ(Series)とグループ(Group)に関する規定である。その、第五章管理(Government)・第六条が、それである。こころみに引けば、つぎのごとくである。

産業部門は、できるかぎり、グループスおよびシリーズにおいて編成せられ、農業・機械・家庭^{家庭仕事}の三主要シリーズをもつて構成せられるべきものとする。各シリーズの長(collect)は、その所属メンバーにより、二ヶ月ごとに選挙せられ(elected)、総務(General Director)の承認を受へべきものとする。各グループは、当該メンバーにより、毎週選ばる(chosen)べきものとする。²⁰⁾

そして、このシリーズおよびグループスの規定が、フリーエーのアイディアの採用であることは、あらためて述べるまでもないところであらう。

かくて、ブルック・ファームは、ここに、いよいよ、フリーエー主義をとりいれ、フアランクス (Phalanx) として、あらわれる。しからは、フアランクスとしてあらわれたるブルック・ファームは、はたして、いかなる変貌を早するであろうか。われわれは、まず、つぎに、すすんで、それをうかがうであろう。

われわれはその変貌を主として産業部門において、みる。そのことに、ふしぎはない。それでは、そこに、いかなる変貌がみられるか。それは、労働において、シリーズ・グループの体制がとりいれられたところに、みられる。それはいうまでもない。それでは、それは、いかにとりいれられたか。

まず、農業シリーズにおいては、^{ガーデン}庭園グループ・^{オリーブ}果樹園グループ・等にわかれた。家庭のことは^{ドメスティック}家庭シリーズが担当する。それは、^{キッチン}厨房・^{ランドリ}洗濯・^{ユニット}部屋および^{ウエディング}給仕のグループズにわかれた。出版についてもおなじことがおこなわれた。はなはだしきは、リクリエーションまであった。そして、それについては、フェスチバル・シリーズができ、それが、それを、担当した。シリーズ・グループズの体制は子供たちにも、およんだ。そして、子供たちは、そのしごとがよくできたときは、旗をもつことをゆるされた。さぞかし、ほほえましい風景を現出したことであろう。

われわれは、さらに、当時ここにくつて来たマリアンヌ・ドワイト (Marianne Dwight) 嬢がかきのこせるものによりて、その状況をうかがってみよう。

一八四四年の春のある木曜の午前、マリアンヌ・ドワイト嬢はアンナ・パースンズ (Anna Parsons) にたよりをした。そして、そのなかで、かの女は、こうかいている。

……ところで、わたくしが、いま、どこで、なにをしている、と、おかんがえになつて、^{なやで、}生後一八ヶ月の三人のあかちゃん^{アキチ}のせわを、していますのよ！ 太陽はうららかにてり、微風はおだやかで、いかにも春らしく、^{はしくさの、}かおりが、ただよつております。もっとも愛すべき春の日の一日——戸外ですごすべき一日ですわ。ですから、わたくし、今日は、あけひろげたなや^{バーン}で、飼育所のしごとに専念することを、えらびましたの。これは、わたくしの、はじめでの、おしごとなのよ。
(This is my first entrance upon duty.)。おぐれには (For my company)、あかちゃんたちのほかに、牛のみごとな列 (a goodly row of cows and oxen)——一匹の大きな、おとなしい犬——ときどき、かれらのなかから、どれかが、さけび、こえをあげます (a call from one and another)——それから、^{フレイム、グレイ、ホーリデー}精進日を休日として、まもっている、ちいちゃん、おてんば、むすめたちとわんぱく、こぞうたちのひとむれ (a parcel of little romping girls and boys)。ホレース、フレッド・カボット、ブラットさん、ルカス、着かれたばかりのブラッドフォードさん、父、^{ホラセ、フレッド、カボット、}ジーン等々 (Horace, Fred Cabot, Mr. Pratt, Lucas, Mr. Bradford, who has just arrived, father, John, etc., etc.,……)。それから、レディーたちが、多勢、たすねて来てくださいました。ファニー (Fanny) は寮のおしごとをしています。……

木曜日、晩

食堂にいつていたのよ——食卓を用意するのに、たいへんに、時間がかかったわ。メリー・アン・R (Mary Ann R. 訳者注、R・は Ripley の略) が、めったにないほど、よく、用意ができた、と、いったわ。お茶^{チャ}のあと、コップと小皿^{ソーサー}を、みんな、あらったわ。フレッドが、それを、ふきました——たいへんに、ながく、かかったわ (had a grand time)——今晚、わたくしたちのバーラーで、いなかあそび^{アソビ}のあつまり (a meeting in our parlor for rustic amusements) が、ありますのよ——そして、あすの朝は、どうおかんがえになつて、わたくし、お食事の給仕をすること、なっていますのよ。 マリー・アン²²

マリアンヌ嬢は、また、一八四四年四月一四日の日曜に、ブルック・ファームからフランクリン・ドワイト

に、たよりをしている。そのなかでは、かの女は、こう、かいている。

……わたくし、ナーサリーとベビーに、おわかれをしましたのよ。それは、たのしかったわ。ただ一つのことをのぞいてはね。それはね、かわいくて・ちいちゃくて・無邪気な連中が、わたくしの趣味にあわないし、また、わたくしがせわしたいような天使たちでは、なかった、と、いうことなの。わたくしのいまのしごととは、つぎのとおりよ。(ただし、しばしば変更があつて)朝食の給仕(半時間) リブレイ夫人がなさるあと、かたづけのおてつだいなど(一時間半) 一時までドミトリ・グループに行く——ディナーのためのみづくろい——それからアイリーに行き、ディナーの時刻一二時半までぬいものをする。それから、一時半か二時から五時半まで、ピルグリム・ホールで図画を教え、アイリーでぬいものをする。五時半ハイブに行き、お茶のおてつだいをし、お茶のあと、七時半ごろまで、おちゃ、わんなどをあらう。このようにして、ながい一日をすごすのです。でも、それは、しごとがかわるのと、愉快なおなかと、おしゃべりとが、たのしくしてくれますわ。わたくし、花園のグループに、はいらうと、しているところなの。また、ラッセル嬢(Miss Russell)のモスリンのしあげをおてつだいしようとも、おもっているのよ。わたくし、とても、たのしい図画のクラスを一つもっているのよ。それは、わかいお嬢さんと青年のジュセ(Jose)、マルチン・カッシング(Martin Cushing)さんたちのクラスなの。も一つのクラスは正規の学校の子供たちのクラスよ。わたくしは、ここでは、とても、たのしんでいますわ。……わたくしたちには、もつとレジャーが必要だわ。というよりも、もつとレジャーがほしいわ。おしごととは、とてもたくさんで、それをする婦人は、とても、すくないの。ですから、わたくしは、しよつちゅう、おしごと、に、かかりきりで、いなければならぬくらいだわ。晩になるまで、おてがみをかく時間なんて、ないわ。そして、晩になると、わたくしたちは、みんな、小人数で、どっかに、あつまつて、おはなしをしたりして、たのしむのよ。……

マリアンヌ嬢は一八四四年八月三〇日また、アンナ・パースンズにたよりをしている。そのなかに、さきにふれ

た子供のグループのことが述べられている。だから、それをここに引いておこう。つぎのごとくである。

……わたくしたちは、子供たちを、労働と教育のために、グループに組織化しようとしているところです。それは、きわめて重要な一歩です。けつして、なまやさしいものではありません。少年たちの指揮者にはオービスさん (Mr. Ovis) がなることになっています。そして、少女たちの指揮者には、わたくしが期待せられておりますので、したがって、わたくしの時間は、そのために、ずいぶん、とられるにちがいありません。わたくしが、このしごとに、不適任と、いかに、ふかく、感じているかということは、あなたには、おかんがえになることができません。²⁴⁾

こえて、一八四四年九月一九日木曜日、マリアンヌ嬢は、また、フランク・ドワイトにたよりをしている。そして、その中にも、われわれは、子供のグループについての記述をみいだすことができる。つぎのごとくである。

大きな喚声(わんせう)がきこえたので、いま、まどべに、いつてきたところです。すると、あれ、まあ、どうでしょう！マーチン (Martin) と少年の一グループとが、かれらのしごとをおわって、かえってくるころではありませんか。旗を風になびかせながら、小さなフリーエーの徒が。もし、かれらが、なまけて、いたのでしたら、旗をふることは、ゆるされません。少年たちは、ほんとうに、かれらのしごと、に、たのしみを、もってきだして、おります。そして、これらの旗は、一つの大きな刺戟(そく)なのです。おそらく、手芸(テグシ)・グループは、かれらに、とても、きれいな旗を、一つつくってやらねばなりません。²⁵⁾……

ここに、ファンシー・グループの名がでてきたから、ついでに、それについてかいておく。グループのことをあきらかにするに、役だつところ、すくなくないはずであると、おもう。さいわい、われわれは、さきにひいた、一八四四年八月三〇日付マリアンヌ嬢よりパースンズへあてた手紙の中から、それについてのつぎのごとくわしい

記述を引く便宜をもつ。

さて、こんどは、わたくしたちのファンシー・グループのおはなしで、あなたを興がらせてあげねばなりません。わたくしはこのファンシー・グループのために、またこのファンシー・グループから、大きなものを期待しております——ほかならぬ女子の独立の向上と男女の能力平等の確認です。この問題については、わたくしがブルック・ファームに來ましたときから、わたくしのこころのなかで、たえず、いろいろなかんがえが、たたかってきておりました。そして、いま、わたくしは、そのすべてが、どこにおもつかが、わかつたようにおもいます。女子は市場に出せる品物の生産者にならなければなりません。女子は男子にたよらずに糊口の資をかせがなければなりません。そこで、わたくしたちは、すこし資金（二五ドルか三〇ドルとしましょうか。わたくしたちといひますのは、ここにいる女子の大部分のことです）をかりて、材料を購入了ました。そして、一週間で、四五ドルほどのねうちのある、エレガントで趣味ふかいぼうし、ケーブ・カラー・アンダスリーブスなどをつくりあげたのです——そして、それらを、わたくしたちは、ハッチンソンとホームズ（Hutchinson and Holmes）におくりこみました。ハッチンソンとホームズは、わたくしたちが、つくれるだけ、とれだけでも、みんな、ひきとると約束してくれました。もし、それらの品が、すぐにさばけるならば、わたくしたちは非常に勇気づけられますわ——そして、わたくしたちの時間と人数のゆるすかぎり、わたくしたちの商売をひろげてゆくことができますわ。もちろん、わたくしたちが成功しますれば（そして、わたくしたちは成功する決心ですが）、レディがたが、わたくしたちのファンシーのしごとに参加する目的で、ここにいらっしゃることは、たいへんのぞましいことですわ。そうなれば、いま過重になっているわたくしたちのドメスチックのしごとは、もっと分割されるようになります。そして、わたくしたちめいめいは、家のしごとが、もっと、すくなくなり、ファンシーのしごとが、もっと、おおくになります。やがて、資金が蓄積されます（きつとよ）。そのときには、わたくしたちは、なにかあたらしいしごとをはじめましょう。そのようにして、すべての、わたくしたちのプロセスは、どこまでも、女子の向上にやくだ

たされなければなりません。ものごとを精神的にみましよう。女子をひきあげて、男子と同等にしましょう。そうすれば、わたくしたちがのぞみえない、いかなる知的発展が、ありましよう？ 社会の全貌は、いかに、かわることでしょう！ そして、これこそ、偉大なしごとでございますわ。それは、アッソシエーションがその現在の初期の段階において、なさねばならないことでは、ないでしょうか？ あなたが、ごじぶんの性を愛し、尊敬するところにしたがって、おうごきなさい。わたくしたちのファンシー・グループを、おこころに、おかけください。そして、わたくしたちにとって有益であることを、おきずきになられ、また、おかんがえになることができますことは、なにごとによらず、そのパターンとデザインを、わたくしたちに、おおくりくださいまし。²⁶⁾

マリアンヌ嬢は、また、さらにめずらしいグループのこともかいている。ついでに、それも紹介しておこう。それは、かの女が一八四五年三月二日の日曜日の午後に、おなじくペースンズにあってかいたたよりのなかにみえるところのものである。つぎのごとくである。

……わたくし R・L・S・G (すなわち rejected lovers sympathising group) のこと、おはなしましたね。それとも、まだでしたかしら。それはそうと、とてもおもしろいことがございましたのよ。あなたには、とても、御想像もつかないほどよ。実は一・二日まえのことですわ。お食事の席でチャールス・ダナが、いともおこそかに、アナウンスしましたの。R・L・S・G のミーチングが、その晚一〇時半、ナーサリーにおいてひらかれる。会員および、不日会員となることを期待せられておる入会候補者は全員出席せられたい。時間励行のこと。いつものバッジを着用なきものは入場を許可せず。名誉会員の入場には特別の措置が講ぜられるはず。ですって。それが、すべて、きり口上で、いつてのけられたんですわ。みんなが、たいへんに、おもしろがって、いろいろと質問がとび出しまして……²⁷⁾

以上、われわれは、フアランジェ化したブルック・ファームの変貌をめぐり、その様相をうかがった。それにしても、ブルック・ファームのフアランジェ化はその体質改善である。そして、それは財政上の要請よりおこるものである。すくなくとも、わたくしには、そうおもわれる。それでは、その体質改善は、よく所期の目的を達成することに成功したであらうか。財政は、はたして、それによって、健全となったであらうか。わたくしは、これより、しばらく、その点にフォーカスをあわすであらう。

(1) 拙稿、ブルック・ファーム・大、経済論叢・第八七巻・第六号（昭和三十三年六月）

(2) O. B. Frothingham, *George Ripley*, Boston: Houghton Mifflin Company, 1882, p. 313.

(3) Charles A. Dana, *Association in its Connection with Education and Religion* (Boston: Benjamin H. Greece, 1844) p. 26.

(4) Henry W. Sams, *The Autobiography of Brook Farm*, Englewood Cliffs, New Jersey: Prentice-Hall, Inc., 1958, p. 81. ただし、原文に

They have [word illegible under wax seal] from different cities and states……

とあるところだが、「」が不明とすべきであるが、ここは、“guests” または “visitors” であるかと推測しても、それはちがいないであろうとみられるとみえる。したがって、しばらく、あえて、そのように訳して置く。

(5) *The Dial*, II (January, 1842), p.p. 370-371 (to be found in *The Autobiography of Brook Farm*, above mentioned, p.p. 70-71.)

(6) *Phalanx or Journal of Social Science, Devoted to the Cause of Association or Social Reform*, published at New York, Volume I, Number, 1, (Thursday, October 5, 1843) pp. 15-16 (to be found in *The Autobiography of Brook Farm* above mentioned, p. 84.)

(7) Henry W. Sams, *ibid.*, p. 238.

(8) F. B. Sanborn, *A. Bronson Alcott, His Life and Philosophy*, 2 volumes (Boston: Roberts, 1893) II, 383.

- (9) 拙稿、ブルック・フアーズ・六、経済論叢・第七卷・第六号（昭和三十六年六月）
- (10) See 6) (11) See 6)
- (12) Henry W. Sams, *ibid.*, p.p. 93-100.
- (13) 拙稿、ブルック・フアーズ・五、経済論叢・第八七卷・第一号（昭和三十六年一月）
- (14) Everett Webber, *Escape to Utopia, The Communal Movement in America*, Hasting House Publishers, New York, 1958, p. 174.
- (15) *ibid.*, p. 190.
- (16) 拙稿、ブルック・フアーズ・三、経済論叢・第八六卷・第四号（昭和三十五年一〇月）
- (17) See 7)
- (18) Nathaniel Hawthorne, *The Blithedale Romance*, The Norton Library, W. W. Norton & Company Inc., New York, 1953, p.p. 76-77.
- (19) Everctt Webber, *ibid.*, p. 190.
- (20) See 12)
- (21) Everett Webber, *ibid.*, p. 191.
- (22) Marianne Dwight, *Letters from Brook Farm 1844-1847*, edited by Amy L. Reed (Poughkeepsie, N. Y.: Vassar College, 1928) p.p. 1-4.
- (23) *ibid.*, pp. 7-9.
- (24) *ibid.*, p.p. 33-34.
- (25) *ibid.*, p. 42.
- (26) *ibid.*, pp. 32-33.
- (27) *ibid.*, p. 85.